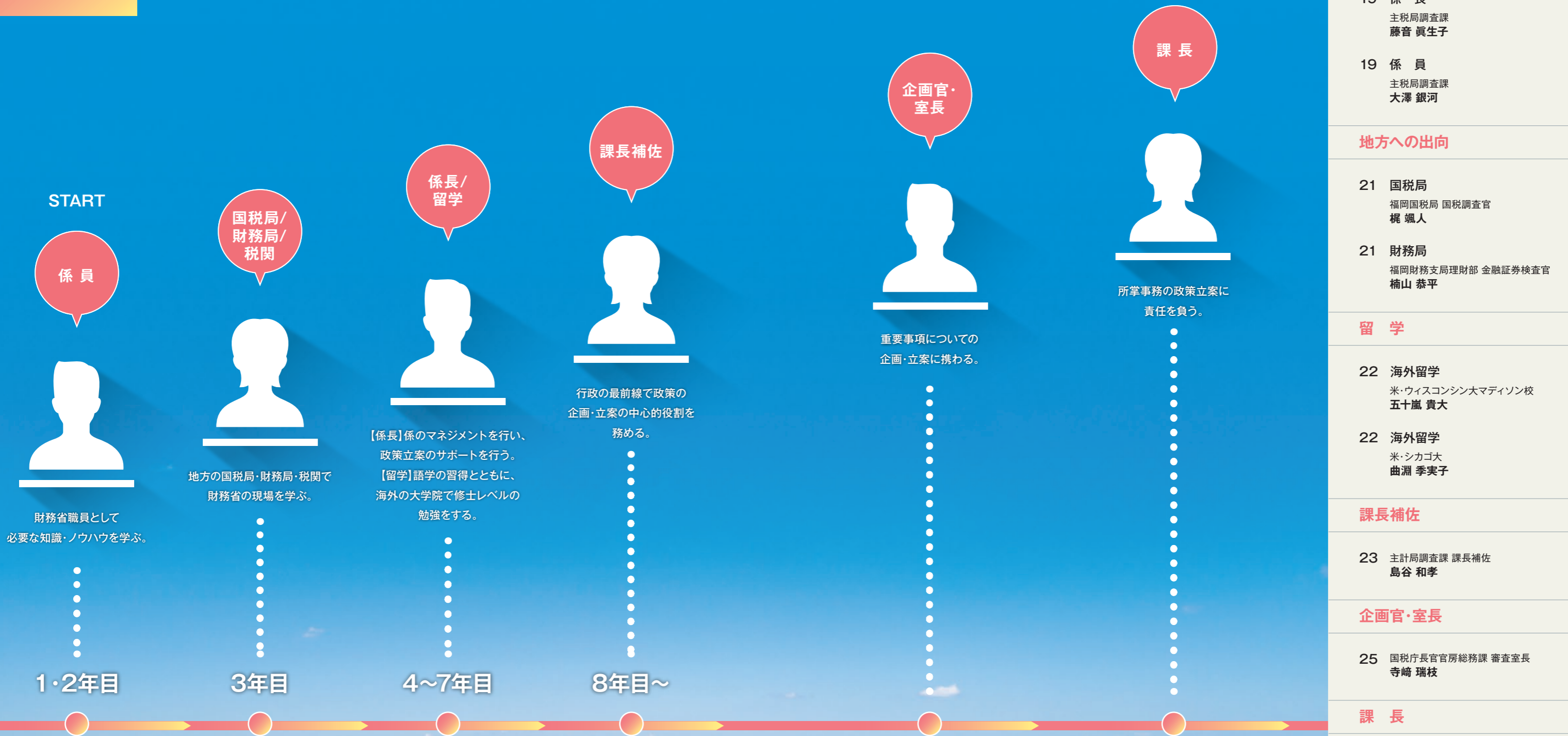


第2部

財務省職員のキャリアパス

財務省職員は、約1~2年ごとに様々な部局で経験を積み、成長しながらキャリアアップしていきます。
下記にキャリアパスの一例をお示します。



第2部 目次

係長×係員 対談

- 19 係長
主税局調査課
藤音 眞生子
- 19 係員
主税局調査課
大澤 銀河

地方への出向

- 21 国税局
福岡国税局 国税調査官
梶 颯人
- 21 財務局
福岡財務支局理財部 金融証券検査官
楠山 恭平

留 学

- 22 海外留学
米・ウィスコンシン大マディソン校
五十嵐 貴大
- 22 海外留学
米・シカゴ大
曲淵 季実子

課長補佐

- 23 主計局調査課 課長補佐
島谷 和孝

企画官・室長

- 25 国税庁長官官房総務課 審査室長
寺崎 瑞枝

課 長

- 27 主計局主計官
(総務係、地方財政係、財務係担当)
関 禎一郎

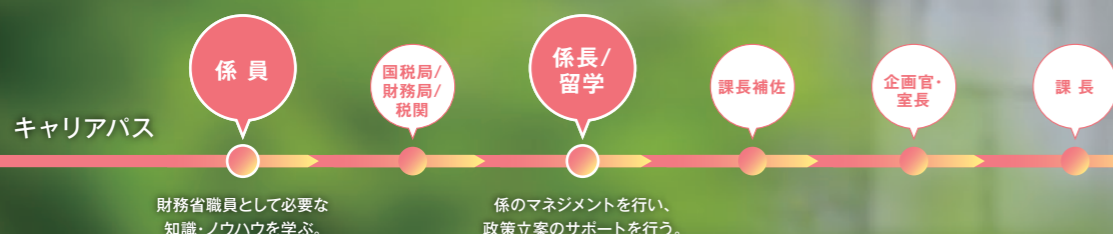
特集 より良い働き方を目指して

- 29 関税局監視課 課長補佐
高橋 実枝
- 29 育児休業
石黒 真理

SPECIAL INTERVIEW

係長×係員 対談

主税局調査課インタビュー



係長 主税局調査課
藤音 眞生子
FUJIOTO Maoko
[平成28年入省]

係員 主税局調査課
大澤 銀河
OSAWA Ginga
[令和2年入省]

お二人の現在のお仕事について教えてください。

藤音 主税局調査課では、税に関する政策の基礎となる事項について調査研究を行うとともに、税制に関する制度の中長期的な視点に立った企画立案等を行っています。私たちは、経済・社会の状況が日々刻々と変わらる中で、「あるべき税制とは何か」を常に考えています。あるべき税制を考えるため、経済・社会の現状を把握するとともに、税制が経済社会に与える影響について、しっかりと調査を行う必要があります。私たちの調査が将来の税制をかたちづくる基礎となるため、非常に重要な役割を担っています。係長としては、各省庁等をはじめとするカウンターパートと良好な関係を築くことも重要な役割です。また、係を預かる立場として、係全体のパフォーマンス向上のため、チーム全体の業務量・進捗を常に把握することを心がけています。



大澤 私の主な業務は、日本の税制に関する調査です。調査というと、単に調べごとをするだけのように思われがちですが、将来の税収を推計したり、ときには国際機関を相手に日本の税制について説明を行ったり、幅広い業務を行って

ます。主税局調査課は、いわば主税局全体の知恵袋です。単に受け身で調査を行うだけでなく、世の中の動きに常にアンテナを張り、先手先手で調査研究を行っています。そのために、政府全体の仕事の流れを意識し、必要な情報を的確に収集・発信することを心がけています。関係部署との連絡を密に取り、各担当者の業務がスムーズに進むように考えながら仕事をしています。

藤音 係長に伺います。係員、係長と経験して、両者の立場の違いを実感することがありましたら教えてください。また、係員の普段の仕事の様子や、一緒に働き始めてから成長したと感じるところを教えてください。

藤音 係長になり、自分の仕事がどのように世の中の現象につながっているのか、より見えるようになりました。また、自分の仕事に加え、係の意思決定や課全体の運営等、マネジメント能力も求められるようになったと感じています。大澤くんは、些細な仕事であっても、手を抜かず丁寧に取り組む姿勢が素晴らしいと思います。入省したばかりの時は、税に関して知らなかったことも多かったと思いますが、仕事の吸収も早く、今では安心して業務を任せられることができます。最近では、自分の考えや意見をしっかりと伝えてくれるため、とても頼りにしています。

係員 から見て、係長はどのような存在ですか？いつもどのように仕事を教えてもらったり、相談したりしているのか教えてください。

大澤 藤音係長には、業務の進捗状況をこまめに報告することを心がけ、自分の作業の位置づけや今後の方向性を一緒に確認してもらっています。入省したばかりの頃は、社会人1年目としてどのように働いていけばよいのか、丁寧に教えていただきました。「自分もこのように頼もしい先輩になりたい」と思わせてくれる存在です。特に尊敬しているのは、業務のプロセス全体を見通した視点から、瞬時的確な判断をされる点です。各カウンターパートの立場になって、何をどのように伝えていくべきか、いつもアドバイスを頂いています。私は、目の前の業務に手一杯になりがちですが、藤音係長のように、全体像をつかんで仕事ができるように日々頑張っています。

この一年で一番思い出に残っている仕事について教えてください。

藤音 調査課の役割の一つに、中長期的な税制の在り方を検討する議論の素材を提供することがあります。テーマは幅広く、例えば、経済成長に伴う税収の変動、税・社会保障による再分配前後のジニ係数の推移、税・社会保障料の負担率の推移について、調査・分析を行っています。その他にも、税制を企画立案するには、社会全体の潮流についても把握する必要があるため、働き方の多様化やデジタル化の進展等のトピックについても、調査・分析を行いました。社会全体の潮流や中長期的な税制の在り方を考える際は、様々な観点から議論を行うことが不可欠です。大澤くんが作成した資料に私がコメントしたり、私が作成した資料に大澤くんからコメントをもらったり、お互いの意見をぶつけ合う中で、次々に新た

な疑問点が浮上することも日常茶飯事です。1年を通じて、さまざまなトピックを扱いましたが、調査を経るごとに、係内の連帯感が強くなっていきました。議論に議論を重ねて作成した私たちの調査資料が、政府税制調査会の会議資料となり、今後の税制の在り方に関する議論が進んでいくのを目の当たりにすると、達成感がありました。

主税局調査課の雰囲気について教えてください。

大澤 私たちの係は、若手が多く活気にあふれており、風通しもよいので、係員でも自分の意見を伝えやすく、働きやすい環境です。課には様々な仕事を経験してきた職員が多く、日々の何気ない会話の中でも新しいことに気づかされる刺激的な毎日です。また、プライベートの相談も遠慮なくできるので、安心して仕事に取り組むことができています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、テレワークをする機会も多かったのですが、上司や同僚が常に、「体調に変化はないか」「困っていることはないか」等を気にかけてくださり、不安なく仕事に取り組むことができました。オンラインであっても、職場と変わらないような形で交流を深めています。

就職活動中の学生へのメッセージをお願いします！

藤音 就職活動は、悩むことが多いと思いますが、就活中は、民間企業から官公庁まで、様々な組織の方からお話を聞ける貴重な機会でもあります。多くの方の話を伺い、納得できるま

で悩みぬいてください。自分がどのような形で社会に貢献したいのか、丁寧に自分と向き合った時間は、社会人になった後でも、必ず自分の糧になると思います。財務省では、幅広いフィールドで活躍することができます。自分自身が成長する機会が多いと同時に、様々な形で社会に貢献することができます。最後まで悩みぬいた結果、財務省で皆さんと一緒に働くことができれば嬉しいです。

大澤 私が就職活動をした際は、他の省庁に進むか最後まで悩みました。最終的に財務省を選択したのは、自分が今後どのように生きていきたいのかを考えたときに、財務省が持つ様々なフィールドやその環境で生き生きと働く方々に魅力を感じたからです。実際に働き始めて1年が経とうとしていますが、初めて触れる税の世界も非常に興味深く、刺激を受ける毎日で、財務省に来て良かったと改めて感じています。就職活動は迷うことも多いと思いますが、しっかり考えて悩んだ末の決断に後悔はしないはずですよ。皆さんに後悔のない選択をしていただければと思いますし、一緒に仕事ができることを楽しみにしています！



09:30 登庁

新聞やニュースに目を通す。自分たちの課が関わっている案件が新聞の一面に出ることもあり、世の中の動きに直結している実感。

10:00 政府税制調査会

調査課は、政府税制調査会の運営を担う。政府税制調査会は、学者・有識者の委員の方々が、今後の税制の在り方について議論を行う場だ。今日は、経済社会の構造変化に応じたあるべき税制について幅広い議論が行われた。新型コロナウイルス感染症で変化する社会に対してどのように税制で対応できるかについて、意見が飛び交った。様々な学者・有識者の方々の意見に触れられることは、とても勉強になる。

12:00 昼食

仕事でひと段落したところで、昼食の時間！省内の食堂は、他省庁の利用者もいるほど、人気を集めている知る人ぞ知るスポットである。それぞれ食堂に行ったり、外にお弁当を買って行ったり、午後に向けてエネルギーを充電。

13:00 試算業務

今後の税収がどのように推移するのか、様々な経済前提のもと試算を行った。試算結果をわかりやすく整理する。今後の財政を検討するための重要な資料だ。

15:00 主税局幹部との打ち合わせ

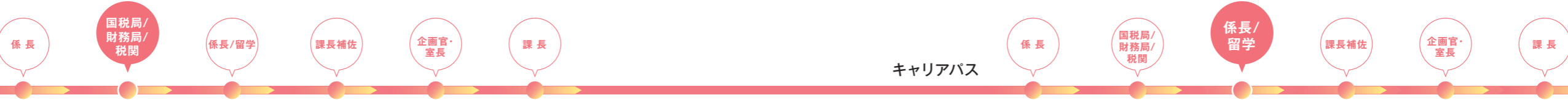
係長と係員で作成した資料について、主税局の幹部へと説明を行う。作成した資料が幹部の判断のベースになるので大きな緊張感。今後のあるべき税制について、幹部との議論を重ねて方針が固まっていく。係長・係員であっても、担当者として責任のある発言が求められる。これまで、係で積み重ねてきた調査の真価が問われる。

16:00 IMF職員と今後の税制の在り方に関して意見交換

日本の税制の在り方について、海外へ正確に発信するのも調査課の重要な業務。今日はIMFの職員との意見交換。日本の税制の現状について資料をまとめ、それをもとに議論を行った。最新のテーマに関する日本の動きや世界の動きについて幅広く情報交換を行うことができた。

18:15 退庁

本日予定していた業務はこれで終わり！明日以降やるべきことを確認し、退庁。



地方の国税局・財務局・税関で財務省の現場を学ぶ。

**福岡国税局
国税調査官**

梶 颯人
KAJI Hayato
[平成30年入省]

CAREER

平成 30年 国際局総務課
令和 元年 国際局調査課

税務行政の現場から

国税局の業務紹介

財務省の外局の一つとして国税庁があり、国税庁の下に国税局・税務署が組織されています。私の所属する福岡国税局は、福岡県・佐賀県・長崎県の3県の税務行政を担っており、3県に所在する税務署のマネジメントを行うとともに、単独の税務署では扱うことが困難な税務事案に取り

組んでいます。

税務行政の現場での経験

私は調査査察部において、国税調査官として大規模法人の税務調査を行っています。具体的には、法人への実地調査を通じて、法人税等の申告が正しく行われているか確認しています。申告内容の誤りをはじめとする税務上の問題

点を発見した場合、国税局職員と法人の担当者との間で議論を行います。私自身も、国税局職員として税務当局の見解を述べ、法人の担当者と議論を行っています。議論のためには税法や会計の知識が不可欠であり、周囲の方々にも教えてもらいながらこれらの専門知識を身に付けています。

税金を自ら賦課・徴収する税務職員としてのこの1年間の経験は、国家の財政運営を預かる財務省職員として、納税者たる国民に負う責任の重みを肌で感じるかけがえのない機会となりました。

学生の皆さんへ

「財務省では現場での経験ができないのではないか」という学生の皆さんの悩みを聞くことがありますが、実際には、財務省が全国に抱える税務当局は税務行政の最前線の現場です。私もまた、その現場に立ち、税務に関する多くの知見や専門知識を身に付け活かす経験の只中にあります。

皆さんも財務省で、幅広い経験をし、新たな学びを得続け、日本の将来に活かしてみませんか？

政策執行の現場と向き合う

作業着とヘルメット

私が現在所属している福岡財務支局は、財務省の総合出先機関として、健全な財政の確保や国有財産の管理、経済調査等幅広い領域に関する施策を実施しています。

ここでは、地域経済の動きを的確に把握するために地域企業の生の声を聴いたり、予算執行に非効率がないか調査するために管内の現場を巡ったり、政策執行のさまざまな現場を自ら見るという経験ができています。

特に印象に残っているのが、災害復旧事業費の査定立会を行った経験です。災害復旧事業費の査定立会とは、台風等の自然災害によって被害が生じた場合に、財務局(財務支局)の職員が、災害現場に赴き、被災施設を所管する省庁や地方公共団体と協議しつつ、災害復旧事業の内容と金額を現地で決定する仕組みです。

私が担当したのは、令和2年6月から7月にかけて全国を襲った梅雨前線に伴う豪雨災害の事案でした。長崎県の大村市に一週間泊まり込み、作業着にヘルメット姿で市役所や他省の方々と議論を重ねた経験は、学生の頃に想像していたようなデスクワークとは全く違って、大変勉強になりました。また、一人で立会官として現場に

立つ以上、土木工事の工法等、これまでの人生で触れたことのないような領域についてもしっかりと勉強することが必要で、とても良い機会となりました。

財務省を志望する皆さんへ

私は、入省1年目には経済財政政策全般の総合調整、2年目には政策金融の枠組みの企画・立案や法改正に携わり、その後、ここ福岡財務支局にて、政策執行の現場に近い場所で経験を積み機会を得ました。これまでの

わずか3年のキャリアの中でも、多様な職務経験を積むことができる財務省という環境は、非常に魅力的だと思っています。

現代において、社会課題の解決には一つの特効薬はなく、複合的なアプローチが求められているなか、このように多様な経験をすることができたことは、必ずや将来の糧になると思います。

「行政官として求められる広く・多層的な視野を得たい」と財務省の門を叩いて3年弱、思い描いた以上に多様な経験を積むことができました。同じ志を持つ皆さんと共に働くことができる日を楽しみにしています。

**福岡財務支局理財部
金融証券検査官**

楠山 恭平
KUSUYAMA Kyohei
[平成30年入省]

CAREER

平成 30年 大臣官房総合政策課
令和 元年 大臣官房政策金融課

語学の修得とともに、海外の大学院で修士レベルの勉強をする。

海外留学
米・ウィスコンシン大マディソン校

五十嵐 貴大
IGARASHI Takahiro
[平成26年入省]

CAREER

平成 26年 大臣官房総合政策課
平成 28年 札幌国税局
平成 29年 主税局総務課

はるか彼方のウィスコンシンで

私は現在、米国ウィスコンシン州の州都マディソンという街で経済学を学んでおり、特に、政府支出の経済効果や経済格差の研究をしています。数年間働いた財務省を一度飛び出て、米国で大学院生活を送ることは、かけがえのない経験になっています。

アカデミアと政策立案

私が通うウィスコンシン大学マディソン校で統計学

の教授を務めた、故George Box氏の有名な言葉に、“All models are wrong, but some are useful.”というものがあります。アカデミアには数多くの政策的インプリケーションが眠っていますが、それらには多くの仮定や限界が存在し、現実社会に妥当するとは限りません。有益な研究成果を社会に活かすには、社会制度を熟知した行政官が、専門知を実行可能な政策に「翻訳」し、その政策を様々な議論やプロセスを経て実

自己の成長を社会に還元する

世界各国の失敗から学ぶ

私は現在、シカゴ大学の公共政策大学院で学んでいます。突然ですが、皆さんは、「自動車事故を減らす目的で安全装置の導入を政策的に義務付けたところ、人々の行動が変容し、かえって事故が増えてしまった」という話をご存じでしょうか。このような意図せぬ政策効果は、シカゴ大学の研究者の名にちなんでベルツマン効果と呼ばれています。

私が現在履修している授業の一つに、世界各国の政策の失敗を分析する授業があります。国の政策は影響が大きく、倫理的にも経済的にも、実験で効果を確認することは簡単ではありません。それゆえ、過去の失敗例は、行政にとって貴重な教訓の宝庫です。私自身、過去の教訓からしっかりと学び、今後の政策立案に活用したいと考えています。

視野の広い行政官になるために

新型コロナウイルス感染症や米国大統領選挙等について、現地の友人や先生方と議論していると、価値観の違いや日本の強み・弱みが見えて

現させることが必要です。これが、この時代に海外で学ぶ私たちの将来的な責務だと感じています。

奥深きエイゴの世界

海外経験が少なかった私にとって、海外で生活すること自体が学びの連続です。渡航直後は、教授のジョークに周りが爆笑するなか、意味も分からず愛想笑いを浮かべたこともありました。日常生活の場面でも、外食ではイメージと異なるものが運ばれ、コールセンターとのやり取りに苦戦し、医療や保育サービスの日本との違いに驚きながら、何とか全てが英語である環境にも慣れたところです。多様な人々が暮らす米国で、英語は他者を理解するための入口に過ぎません。英語を通じて、様々な慣習の背後にある文化や歴史に気がついたとき、今までとは異なる視点から日本を見ることができるようになりました。

新たな希望を求めて

人口減少という日本の運命を簡単に変えることはできません。しかし、この困難な時代を乗り越え、希望ある社会を次世代に引き継ぐ力が日本社会にはあり、そこで財政が果たす役割は大きいと私は信じています。財政という、答えが無い課題に共に挑む仲間を待っています。

お持ちでしょうか。私が学生の頃は、自分には不釣り合いで働けないのでは……と考えていました。しかし、官庁訪問や入省後の仕事を通じ、「日本や世界を良くしたい」という思いこそ、財務省で働く人々が共有し、かつ必要としているものだと気が付きました。留学で得た新たな視点や知識を活かし、自己の成長を社会に還元したいと気持ちを新たにしているところです。日本や世界をより良くする仕事に、あなたも一緒に取り組んでみませんか。

より良い日本と世界のために

皆さんは財務省に対してどのようなイメージを

海外留学
米・シカゴ大

曲淵 季実子
MAGARIFUCHI Kimiko
[平成26年入省]

CAREER

平成 26年 関税局関税課
平成 28年 広島国税局
平成 29年 主税局参事官付

課長補佐

これまでの歩み



「最高の営業マン」を目指して

主計局調査課
課長補佐

島谷 和孝
SHIMATANI Kazutaka
[平成17年入省]

キャリアパス

係長

国税局/
財務局/
税関

係長/留学

課長補佐

企画官・
室長

課長

行政の最前線で政策の
企画・立案の中心的役割を務める。

学生へのメッセージ

私は、就職活動時に大きく2つの不安を感じていました。

一つは、就職先を一つに絞り込み、他の可能性を「捨てる」ことへの不安です。様々な活動をして可能性を広げてきたにもかかわらず、進路を一つに定めることで可能性が閉ざされてしまうのではないかと、「この分野が一番面白い」と簡単に決めてしまっていたのか、悩んでいました。確かに、人生は他の可能性を「捨てる」決断の連続です。しかし、私は、財務省はあらゆる分野への知的好奇心を「捨てる」ことなく、様々な分野の面白さを追い求め続けることができる非常に魅力的な職場だと感じています。

もう一つは、自分は情熱が足りないから確固たる夢を持っていないのではないかと、という不安です。就職活動の際に、「君の夢は何か」という問いにうまく答えることができず悩んでいました。この不安に対して、私は、「2種類の人間が

いる」と考えるようにしています。確固たる夢に向かって努力する人間か、確固たる夢がなくとも目の前のことに一生懸命取り組む人間か。筋トレに金メダルを獲るといった目標が必要かどうかかもしれません。私は、自分が後者の人間であると思っています。逆にだからこそ、入省以来、どのような分野でも食わず嫌いせずに取り組んできました。夢を固めきっていないからこそ、可能性は無限大。そう考えると、ワクワクしませんか。

財務省は、可能性を一つの分野に閉ざすことなく、目の前の段階を一步步ずつ登っていけば、気が付いたら驚くような光景に出会える職場だと思っています。私と同じような不安を抱えている方がいたら、ぜひ財務省にも遊びに来てみてください。想像もできない出会いと経験が待っているかもしれませんよ。

2005年
理財局
(新人時代)

アイデアとやる気と行動力

理財局で、特に国債関係の業務に携わりました。マーケットに詳しいわけではなかったので、わからないこと・面白そうなことがあれば、担当に関係なく直接聞いて回ることに、新人であっても自分なりの付加価値をつけることを心掛けていました。

当時は、国債を海外投資家にも購入してもらうため、海外IR(投資家説明)に力を入れており、欧米に加えて中東諸国を初めて訪問すること

になりました。私は好奇心が勝って中東チームを志願し、現地での投資家への説明に向け、現地の文化・宗教・風習まで必死で勉強することになりました。また、40年という超長期の国債の新規発行プロジェクトも印象に残っています。当時、30年債までしかなく、40年債の適正価格がわからなかったため、当時の上司は、アメリカの金融工学の大家を訪問、説得して研究会を立ち上げ、40年債の適正価格を算出する金利モデルをつくり上げました。役所の仕事はここまで自由なのかと驚きつつ、アイデアとやる気と行動力さえあれば、何でもできることを学びました。

2007年
仙台区税局・
留学

予想外の学び

入省3年目で国税局に出向しました。財政に携わる一員として、税金1円の重みを現場で知る貴重な機会ですが、私にとってはその後の仕事の基礎を学ぶ機会でもありました。税務調査先で様々な業界の動向を謙虚に聞くヒアリング力、数字の羅列の中におかしな動きを感じとる嗅覚、取引先にもウラをとって主張を補強する周到さ、年長者とも協力して仕事を仕上げていくマネジメント力、いずれも今の仕事の基本になっています。

また、入省6年目にアメリカに留学しました。学問に励み、語学力を高めるとともに、視野を広げる非常に重要な機会です。私は、中西部と西海岸で、公共政策と法律を学び、異なる生活環境・学問を経験できました。さらに、妻が仕事で私より一先先に帰国したため、最後の半年間、子どもと2人きりで生活できた(ワンオペ育児)ことは貴重な経験です。寝落ちして宿題が満足に終わらなかつたり、手抜き料理で子どもの栄養が偏ったり、周囲にも迷惑をかけた日々でしたが、仕事(学業)と子育ての両立の難しさを、身をもって学びました。

2013年
厚生労働省
出向

政策のイノベーション

厚生労働省年金局では、マクロ経済スライドという仕組みに衝撃を受けました。少子化・高齢化にもかかわらず、日本の年金財政はかなり安定的だと見込まれています。それは、少子化・高齢化の程度に応じ

て自動的に調整される制度(マクロ経済スライド)が導入されているからです。負担の分配が難しいとされる民主主義のなかで、この仕組みは政策手法のイノベーションなのではないか、他の行政分野でも応用できるのではないかと強く感じました。

2015年
主税局
課長補佐

税金を通して経済活動を見る

主税局では、税金見直しとエコカー減税を担当しました。税金といえば、計数だけを扱う無味乾燥な仕事と思われがちですが、数字にはドラマがあります。例えば、消費税率が増えているとき、消費税率を上げたからなのか、消費が伸びているからなのかで、政策的インプリケーションは全く違います。税金というフィルターを通して、実際の経済活動が見えてくるのです。

エコカー減税をはじめとする税制改正は、相手省庁、政治家、業界

団体等と折衝しながら進めていく政治的なプロセスです。折衝といっても、単に0と100で、間をとって50、という調整をするだけでは付加価値はありません。自分なりの哲学が必要です。エンジンを開発する技術者の方と酒を飲んで熱く議論しながら、自動車業界の将来像を真剣に考え抜きました。そうした哲学があってこそ、業界の方々も話を聞いてくれるのです。他にも、減税の基準となる燃費を、マクロ経済スライドのように技術の進歩に合わせて自動調整できないかといったことを、制度の根本から議論することができた印象深い1年です。

2017年
主計局主査

マクロ・ミクロの視点で未知の世界を学ぶ

科学技術と環境の予算を担当しました。担当分野の勉強を夏から始め、秋には相手省庁や業界の方々と話ができるようにしておかなければなりません。量子力学やエネルギー等、自分の知らなかった世界を勉強できることは、本当に楽しいです。

その際重要なのが、マクロの政策論とミクロの事業の執行状況の両方を考えることです。例えば「民間企業にもっと研究費を出してもらおうべき」といったマクロの指摘は、総論としては正しいのですが、ミクロの事業に落とし込むことが難しい。逆に、「ある事業が成果につながっていない」といったミクロな指摘をしても、抽象化ができなければ

ば、政策の方向性を大きく変えることはできません。ミクロの個別事業において、どのように評価して事業を採択しているのか、実際の成果はどうか、執行を細かくチェックしていかなくて、問題点を抽出し、マクロの一般的なルールを練り上げていく、こうしたマクロ・ミクロを両方考えられるのが主計局の醍醐味です。

主査経験を通じて私が抱く理想は「最高の営業マン」です。相手の要求を、周囲と調整しながら実現できるのは、良い営業マン。相手は要求していないものの、将来必ず顕在化するような潜在的なニーズをくみ取り、先回りして提案して実現できるのが、「最高の営業マン」。まだまだ遠い道のりですが、理想は高く持っていたいと思います。

2020年
主計局調査課
課長補佐

16年目にして初めて財政健全化

現在は、財政健全化を実現するための企画・立案を行っています。入省以来、様々な部署を経験しましたが、財政健全化を真正面から考える仕事は初めてです。新型コロナにより、経済が大きな影響を受けるなか、短期では大胆に財政出動を行い、感染拡大防止や雇用・生活の維持に全力をあげています。一方で、日本はコロナ以前から、少子高齢化による低成長、財政の悪化に苦しんでおり、そうした構造的な課題への対応も待たないです。非常に難しい舵取りが求められる局面です。

財務省は、業界団体のしがらみがなく、将来世代のことを考えて仕事ができると言われます。しかし、「財政が悪いから支出を削減すべき」と

主張するだけでは、「将来世代」という業界団体の利害を代弁しているに過ぎません。社会の構造変化を見据え、現役世代・将来世代がチャレンジできる環境をどう整えていくか、限られたお金をどう資源配分して日本の中長期的な成長につなげていくか、受け身ではなく財務省から提案するクリエイティブな姿勢が求められています。

一口に「財政健全化」と言っても、国債市場への影響を考えるとときには理財局の経験が、歳出面で大きなウェイトを占める社会保障を議論するときには厚生労働省の経験が、歳入面の税金を見るときには主税局の経験が活かされています。どんな分野でも食わず嫌いせずにとっぴり浸かって勉強してきたからこそ、これまでの経験が、自らの血となり肉となつていきます。財務省の仕事は、経験を重ねれば重ねるほど新たな面白さが見えてくる、「スルメ」のような仕事かもしれません。

企画官・室長

これまでの歩み

マイノリティ だけれども

国税庁長官官房総務課
審査室長

寺崎 瑞枝
TERASAKI Mizue
[平成14年入省]



学生へのメッセージ

想像してみてください。皆さんが、今の倍の歳になった時のことを。どんな日々なら、今の自分の選択に後悔はないと言えるでしょうか？

財務省は、20年後のことも考えられる職場です。と言いつつ、今の半分の歳の私は、正直、明確に財務省でやりたいことがあったわけではありませんでした。「私が育ったこの国は、こんなに借金があって、みんな気持ち悪くないのかな。これからも大丈夫なのか。ちょっと話、聞いてみよう」。はじめはその程度の問題意識で、財務省職員としてはマイノリティかもしれません。

今でも、多様性は組織を強くすると信じ、マイノリティなりに試行錯誤を重ねていますが、育ての親がたくさん見つかるのは、財務省の強みだと思います。

次頁で、私の育ての親たちの言葉をご紹介しますが、いろいろな方に話せる機会も多いし、先輩、同僚だけでなく、カウンターパートその他多くの方に育てられ、「今年はこの人と一緒に仕事できてよかったなあ」と思う方々に、毎年出会えるんです。何十年も働くことを考えたら、結構、すごくないですか？



2002年
主税局
(新人時代)

原典確認!

官庁訪問で「株式譲渡益課税って知ってる?」と聞かれ、「わかりません」と答えた私の最初の仕事は、ドイツ税制の調査。税のプロ集団の主税局内でも、ドイツ税制がわかるのは、1つ上の先輩だけ。緻密で賢い人で、いい加減な私は、注意されてばかりでしたが、

強く言われたのが、「原典確認」、つまり、税法条文か公的資料でウラ取りをせよ、ということ。

当時は「イジワルさんめー」と思うこともありましたが、あふれる情報の中で仕事をするには、大事なこと。最初に刷り込まれて良かったと、今ではひっそりと思っています。

2010年
国税庁①
(出向)

“Respect among the honest. Fear among the dishonest.”

国税庁開設時に元GHQ内国歳入課長のハロルド・モスから贈られた言葉で、今も、多くの国税職員の胸にあります。二度目の育児休暇後の本格復帰は、国税庁査察課でした。米国の査察組織との協議もありました。彼らは、脱税のほかマネーロンダリング等も手掛け、銃も携帯する「捜査」機関でしたが、脱税者に立ち向かう熱い思いは日本の国税組織と同じ。

合間に「育児との両立は、結局、祖母頼みで悩む」等とこぼしたところ、若手捜査官は「弁護士が同じことに悩んでいて、それでも今日も祖母宅に預けているんだ」と言い、強面のシニア捜査官も「子どもが小さいときは、混んだ地下鉄で庁舎内の保育園まで連れてくるのが大変で引越したよ」と言い、「共働きの悩みは万国共通だね」と笑いあった場面を、時々、思い出します。

2012年
農水省
(出向)

子どもは、親とは別の人間。

政策立案の基礎的な流れを学んだのは農水省でした。出向中に、自民党への政権交代があり、自民党の新たな農政のコンセプトや具体策の伝え方を考えたり、官邸の本部で決定する文書案を作ったり。大臣室のみならず、幹部の要路説明や党の部会対応にも同行さ

せてもらい、政策が形になっていくのを見届けました。

そんな盛りだくさんの2年間の終わり、上司が、内示の最後に付け加えてくれたこの言葉。「子どもは、親とは別の人間」

子どもたちとの距離に悩むときには、この言葉を自分に言い聞かせています。

2014年
理財局

キーセンテンスはどれだ?

財務省に戻って理財局では、財政投融资と国債を2年ずつ経験しました。そのうち1年は連日、資金調達(入札)をしていました。残る3年は、年末に向けて、財設計画や国債発行計画をまとめる編成業務でした。財務省の典型的な業務の一つで、担当省庁や機関等から話を聞いて、素人なりに咀嚼して、今度はその立場を背負っ

て、局内で説明して計画を作っていく、そんな役割を担いました。

はっきり言って私は、理路整然とした説明が苦手です。最初の編成で、上司から聞かれたのが、「今の説明のキーセンテンスはどれだ?」。説明したいことは、大概、突き詰めるとワンフレーズのはず。資料も説明も、それを意識すればよいのだ(と、昔の上司がよく言っていた)、とのこと。なるほどっ! ま、実際は、これが難しいのですが……。

2018年
主計局

自分で管理しなきゃ、予算は査定できないんだ。

「財政」には、予算以外にもいろいろ大事なことがあると徐々に気がつくものの、それでも興味はあった予算編成。総務省と外務省の予算を1年ずつ担当して、相手省庁に育ててもらった場面が多いことを実感します。

たくさんの説明を受けるなかで、瞬時にそれぞれの予算額や数字のインパクトをつかむ能力があるのとないのとでは大違いなの

ですが、早々に上司からも数字に弱いことの指摘。う……、薄々気づいていましたが……そんなときは迷わず有能な同僚たちの力を全面的に借りるチームプレーで乗り切ります。

いろいろな人がいろいろなことを言う予算編成を経て、こっそり、予算編成業務と家事(優先順位をつけて複数案件を並行処理)・育児(正論だけでは通せない相手との交渉)って、結構似ているな?と思っています。侮るなかれ、家事育児。

2020年
国税庁②
(現在、出向中)

……と、振り返ってみました。そりゃ、学生のときは想像できてなかったこともあるし、うまくいかないことも、悲しくなることも、投げ出したくなることも、もちろんあります。それでも、いろいろな人の顔が浮かんで、いつの間にか、また頑張るかーという気分になっ

て、の繰り返し。マイノリティなりに、財務省を選んだのは間違っていた、と思っています。

だからぜひ、はじめは軽い気持ちでも。財務省、ちょっと覗いてみませんか?

課長

これまでの歩み

「カタチづくりへの矜持」

主計局主計官
(総務係、地方財政係、財務係担当)

関 禎一郎
SEKI Teiichiro
[平成7年入省]

キャリアパス

係長

国税局/
財務局/
税関

係長/留学

課長補佐

企画官・
室長

課長

所掌事務の政策立案の
責任を担う。

学生へのメッセージ

早いもので入省27年目になりました。予算、税制、金融等の様々な政策分野に関わる制度の企画立案業務に携わってきたこと、査察部長や大臣秘書官等のポストを経験し、臨場感あふれる現場に触れる多くの機会を得たこと、これが私の財産です。

常に「現在」目の前にある課題に全力を注いできましたが、共通していたことは、「過去」の教訓に学びながら、そして「将来」世代に何を引き継げるのかを考えながら試行錯誤していたということです。そして試行錯誤を繰り返すなかで、最後の最後に予算・法律等のカタチをつくりあげるところまで責任を持つことが、財務省に求められる役割・使命であると実感してきました。

自分次第で「過去」、「現在」、「将来」を自由に行き来しながら考えを巡らす場所が財務省にはあります。苦しいこともいっぱいあるけれど、ときにはタイムマシンに乗り「過去」に学び「将来」を想像しながら、社会のカタチづくりの一翼を担うというキャリアパスは、財務省ならではの醍醐味だと思います。



1995年
大臣官房
秘書課

役所を知るための修行期間

採用活動に携わった2年間。入省するまで、大蔵省(当時)で働く職員は皆同じようなタイプなのではないかと思っていました。しかし、採用活動に携わるなかで、諸先輩のキャラクターが本当に多

様であること、また、キャリアパスも様々であることを深く知ることができました。

自分が働く職場について、懐深く自分が鍛えられる土壌を持ち、多様なキャリアパスを実現しうる組織であるとの思いを早くから持てたことは幸いでしたし、今もその気持ちは変わりません。

2001年
金融庁
出向

政策実現の型を学ぶ

信託業法の82年ぶりの改正や、リレーションシップバンキングに関する金融審議会報告書の取りまとめ作業を担当。当局が動くことで金融ビジネスの新展開につながるという、制度改革が

持つ意味を肌感覚で理解する初めての機会となりました。

関係者、専門家の意見を伺いながら制度改正案をまとめていく段階から、法案作成、国会審議に至るまで政策実現のプロセスを一気通貫で経験できたことは、その後の自分の素地になりました。

2004~
2006年
総理秘書官補

チーム小泉の末席に連なって

小泉政権下で、総理秘書官の補佐業務を担当。総理の国会答弁の原案づくり等を行うなかで、小泉総理の言葉の使い方を間近で見られる機会を得たことは大きな財産になりました。

単に「ロジック」だけでは十分でなく、具体的なエピソード等を

交えて「ストーリー」として言葉を発することで、政策等の発信力が大きく変わるという場面を何度も見る機会に恵まれました。それもメッセージの受け手を意識しているからこそできることで、こうした気づきはその後仕事していく上でも役立っていると痛感します。

2011~
2013年
主税局

社会保障と税の一体改革 結実!

政権交代を挟みながら、政府や与党の税制調査会の議論に参画。社会保障と税の一体改革の議論の現場を三党合意の成立に至るまで見届けました。

消費増税を実現するためには、将来世代の負担軽減、社会保障の充実・安定化等の大義がもちろん必要です。しかしそれだけでは足りません。歴代政権において長年にわたり積み重ねられてき

た議論の蓄積や、税制改革の基本方針をプログラム法の形で規定したうえで実際の制度改革につなげていくという「プロセス」の作り込み、消費税以外の税目の制度改革や低所得者対策といった「環境づくり」等の総合的な取り組みがあって初めて乗り越えられる政策課題だったと思います。

黒衣に徹しながら政治プロセスを支えきる、財務省のカタチづくりの真髄を見た大きな経験でした。

2016~
2017年
東京国税局
査察部長

マルサの男!?

脱税に対する犯則調査を行う現場部隊の指揮官的な役割を担当。巨悪を許さないという誇りを胸に日夜努力する現場職員の思いに応えるため、何ができるのかを考えた一年となりました。自らの目の前で一つ一つの事案の調査状況が報告され、強制調査に乗り出すかどうかの判断を迫られる瞬間の身震いするような感覚

は、今でも忘れません。調査の結果、告発まで行きついた時の、担当チームの充実感あふれる表情も鮮明に覚えています。

当たり前のことではありますが、税制も適正な執行あって成り立っているものであり、その観点を抜きにして制度を考えることはできません。制度に魂を入れるために払われている現場の努力に敬意を払うことは、今も骨身に染みんでいます。

2018~
2020年
財務大臣
秘書官

大将の器の大きさに触れる日々

麻生大臣にお仕えしながら、国会審議や国際会議等の場でサポート。財務大臣としてのメッセージを際立たせる、政治家としての言葉の選び方、国際会議でキーパーソンを早くから見極め、日ごろからの関係づくりに力を注がれる姿等を見て、仕事を進めるた

めの真髄を学ばせていただきました。

麻生大臣が議長を務められた福岡でのG20財務大臣・中央銀行総裁会議が成功裏に終了した時、大臣の晴れ晴れとした笑顔に接した際に感じた喜びは、秘書官冥利に尽きる忘れられない思い出です。

2020年~
主計官

カタチづくりの最前線

総務省予算(地方財政を含む)、財務省予算担当の主計官として予算編成に参画。これまでの税収増のトレンドが一転する異例の状況下での予算づくりとなりましたが、足下の新型コロナウイルス感染症対策だけでなく、デジタル化等将来の社会の方向づくりのために今打つべき施策とは何か、深く考える機会となりました。

一般的には、査定といえば要求を切る、というイメージが強いかもしれませんが、むしろ限られた財政資金をどの政策分野にどういう形で投入することが求められているのかについて、要求省庁と一緒に知恵を絞るカタチにしていく作業というのが実態に近いです。入省して以来の様々な経験を活かしながら、社会のカタチづくりの最前線の一翼を担っています。